

ムラサキ科 ハナイバナ属

ハナイバナ (葉内花)

Bothriospermum zeylanicum (J. Jacq.) Druce

自生環境

道ばた、野原、林縁 など

原産地

日本在来

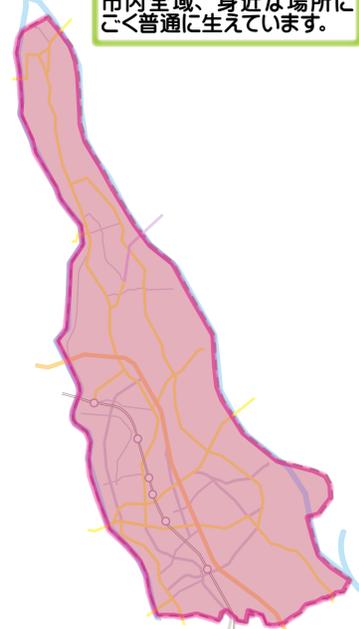
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

市内全域にごく普通で、今のところ絶滅の心配はありません。しかし目の敵にしすぎるのは考えもの。地域に咲く野の花として、やさしく見守る気持ちを大切にしたいところです。

市内の分布状況

市内全域、身近な場所にごく普通に生えています。



特徴

- ☆ 日当たりのよい乾燥した場所にごく普通に生え、春から秋にかけて長期間花を見ることができ小さな1~越冬草です。よく似たキュウリグサとよくいっしょに生えています。
- ☆ はじめのうちは株もとに葉が密集したような姿をしていますが、花が咲きはじめると、急速に茎がのびてきます。株もとの葉は深緑色で少し波打つ傾向があります。葉は茎の先端までつき、葉と葉の間に花や果実が1つずつつきます。名前は葉内花で、この花のつきかたに由来します。
- ☆ 花は直径2~3mmほどで、薄い青紫色。花冠が5つに開き、梅の花のようなかたちをしています。花の中心付近にある輪っかのような部分を「のど」と言いますが、ハナイバナはこの部分も薄い青紫色です (キュウリグサは薄い黄色)。

花びら5枚ではない

ハナイバナは花びらが5枚あるように見えますが、じつは5枚ではありません。根もとが全部つながって1つの筒のようにになっているからです。このような花びらを花冠 (かかん) と言い、花冠の上半分が5つに開いて、まるで5枚の花びらがあるように見えているのです。花びらが花冠となるグループを合弁花類、花びらが1枚ずつ独立しているグループを離弁花類と言います。



直径3mm
くらいの
小さな花を
咲かせる

花が咲き
進むにつれ、
茎はどんどん
長くなる



のど

のどの部分は
キュウリグサ
のように
黄色くない

がくは
毛深い



若苗の葉は
深緑色で
少し波打つ

葉は茎の
先までつく



がくは5枚だが、
中にできるタネは4個



花や果実は
葉と葉の間に
1つずつつく



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

